

解 答 例

問一 解答例 (200 字以内)

新聞は迅速に情報を一義的かつ明快に伝えることを目的とし、読み手の姿勢に左右されず理解できる文体を理想とする。他方、古典は一読で尽きず、ていねいな読みを必要とし、再読や時間の経過により新たな意味が開示される。各人の解釈によっても理解が変わり、一義的でなく個性的な受容が生まれる点に特徴がある。したがって「情報として読む」と「古典として読む」ことは、文章理解の姿勢と性質において大きく異なる。(196 字)

問二 解答例 (800 字程度)

私たちは普段、文章を読むときに大きく分けて二つの読み方をしている。それが「情報として読む」読み方と「古典として読む」読み方である。課題文では、新聞が前者の代表として挙げられ、その対照となるのが古典だとされていた。この違いを考えることで、私は自分が無意識に行ってきた読書の姿勢を見直すことができた。「情報として読む」とは、できるだけ速く正確に内容を理解し、誰が読んでも同じ意味に受け取れることを重視する読み方である。課題文で交通標識にたとえられていたように、読み手の姿勢に左右されず明快に伝わるのが理想とされる。私自身も、テスト勉強で教科書を読むときには、要点を押さえ暗記し、他人と同じ理解に到達することを目的として情報的な読みを行っている。一方、「古典として読む」とは、一度読んだだけでは尽きず、繰り返し読むことで新たな意味が見えてくるような読み方である。同じ文章でも、時間の経過や読み手の成長によって、理解が変化する深さを持つものが古典だと課題文は述べていた。私も国語の授業で『徒然草』を学んだ際、最初は難解だと感じたが、解説や自分の経験と重ねることで、人間の感情や価値観の奥行きを読み取れるようになった。これは古典的な読みの体験であったと思う。また、古典の読みは一義的ではなく、ていねいに読めば読むほど解釈が人によって異なる点に特徴がある。友達と同じ作品を読んでも、心に残る場面や言葉が違うのは、読み間違いではなく、それぞれの感受性や成長を映し出すものである。課題文のいう「各人に違った中身を呈してくる」という言葉の意味が、実感をもって理解できた。私は、この二つの読み方はどちらも欠かせないと思う。情報としての読みは生活や学習に不可欠だが、古典として読む姿勢は自分を深め、同じ文章から何度も新しい発見が得られる。課題文を通して、これからはすぐに分からなくても立ち止まり、時間をかけて読み直す姿勢を大切にしたいと思った。(813 字)

出題意図

ややくだけた調子の文章ですが、伝えている内容には割と深いものがあります。そこを読み取ってもらうことがまずは最低条件になります。高校生にとってこの文章を読む意味は、「古典を理解すること」そのものよりも、自分が普段どんなふう文章を読んでいるかに気づき、内省することにあると言えます。「ファスト教養」などという言葉が横行する世の中、情報過多の社会で、表層的な思考に走ってわかりやすいものだけを摂取するのではなく、わかりにくいものにじっくりと取り組み、自分の思考をより深めて行く「読み方」が存在するということに気づいてもらえれば、という期待も込めて出題しています。